

「はたらく私たちの 健康権を創造する ～戦後 80 年をふり返り、自己責任論をのりこえよう～」

約60名が参加して第2回実行委員会を開催

「健康で文化的な最低限度の生活」について考える

講師：志賀信夫さん（大分大学福祉健康科学部准教授）



第2回実行委員会を医療生協在宅総合センターすこやか 1 階ホールで開催しました。参加者は県労連、医労連、建交労などの労働組合と民医連、医療生協の職員、組合員 60 名あまりでした。学習講演では、大分大学の志賀信夫さんを講師に、「貧困」をテーマにお話していただきました。最初に、自分の奨学金返済額が 1,600 万円に及び、「自己破産」したことのお話から、「①『貧困』とはなにか？～貧困理論～、②『人権』『権利』『人間の尊厳』はなぜ重要なのか？、③生活保護基準が引き下げられた。何が問題なのか？、④これからの貧困対策とは？」の4つの項目にそって

お話がありました。貧困とは、『あってはならない状態』だとして、それは誰が決めるのでしょうか。それは、私たちの連帯の水準で決まります。

学習会参加者の感想より

- 『貧困』と自分はどう向き合っていくのか、何か行動を起こせる人になりたいと思いました。（作業療法士 40 代女性）
- “貧困”についての認識は「貧乏でないこと」ぐらいの受け止めでしたが、実はそんな簡単なことではなく、人権や生き方に深くかかわっていることが今日の講演でクリアになった気がします。（コープ職員・60代）
- 「貧困」とはお金のことだけでなく、一人の市民として権利の側面から考える事が重要で、少し考えが変わりました。すごく分かりやすく、歴史の移りかわり、考え方を詳しく考えさせられる話でした。ありがとうございました。（介護福祉士・40代）
- 自分の家族に生活保護者がいるが、それを言うことは恥だと思っている自分も、その社会にも差別があると思う。自分は運よく仕事しているが、仕事できなくなった時が不安でたまらない。（事務職・40代）
- 貧困とは、自分が感じていた概念とは異なるなと思いました。話をきいて、権利、自由の平等を要求していかななくてはならない大事さ、貧困に対する理解、対策を行っていく必要があると感じた。（会社員・40代）

第2回学習会動画が
QRコードから
視聴できます。

